

ひとくち  
一庫ダムの事前放流の実施について

一庫ダムでは、平成30年7月豪雨において異常洪水時防災操作<sup>※1</sup>を行ったことを受け、洪水調節<sup>※2</sup>の機能向上となる事前放流の検討をしてきました。このたび、検討が完了し、令和元年9月1日から事前放流を実施することとしました。【資料参照】

この事前放流は、計画規模を上回る洪水が想定された場合に、予めダム貯水位を下げておくことで、洪水調節容量を使い切ることを回避（異常洪水時防災操作移行の回避）、もしくは異常洪水時防災操作移行の遅延を図り、ダム下流の浸水被害の軽減及び避難時間をかせぐことができます。

- ※1 異常洪水時防災操作：ダムの貯水容量が満杯になるとダムに貯め込むことができなくなるため、ダムに流れ込んだ量と等しくなるまで放流量を増加させる操作。
- ※2 洪水調節：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に貯め込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の河川水位を低減させる操作。



令和元年9月2日

独立行政法人 みずしげんきこう 水資源機構 一庫ダム管理所

発表記者クラブ

川西市政記者クラブ  
豊中記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 一庫ダム管理所  
所長代理 齊藤（さいとう）  
住 所：兵庫県川西市一庫字唐松4番地-1  
電 話：072-794-6671（代表）

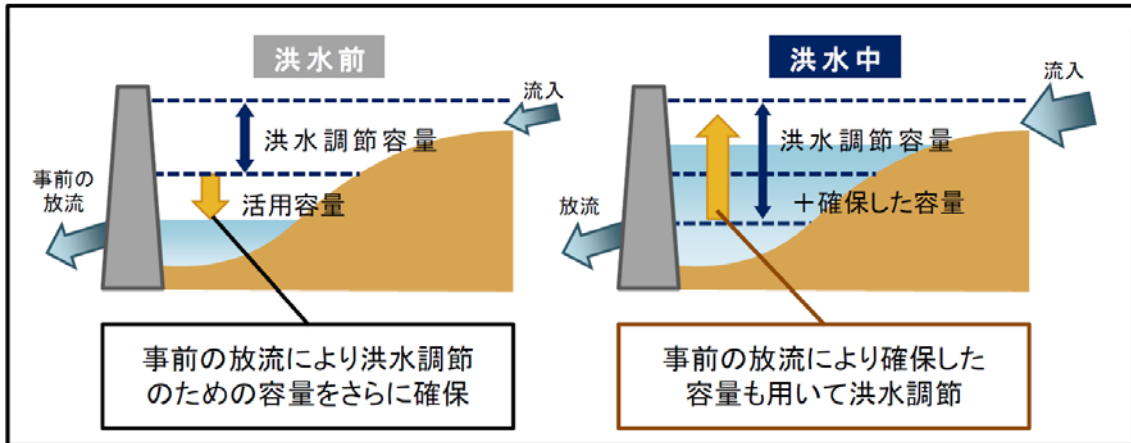
# 一庫ダムの事前放流の実施について

一庫ダムでは、平成30年7月豪雨において異常洪水時防災操作を行ったことを受け、洪水調節機能の向上を検討してきました。

このたび、事前放流の検討が完了したことから、計画規模を上回る洪水が想定された場合に、予めダム貯水位を下げておく事前放流を令和元年9月1日から実施することとしました。

## 1. 事前放流とは

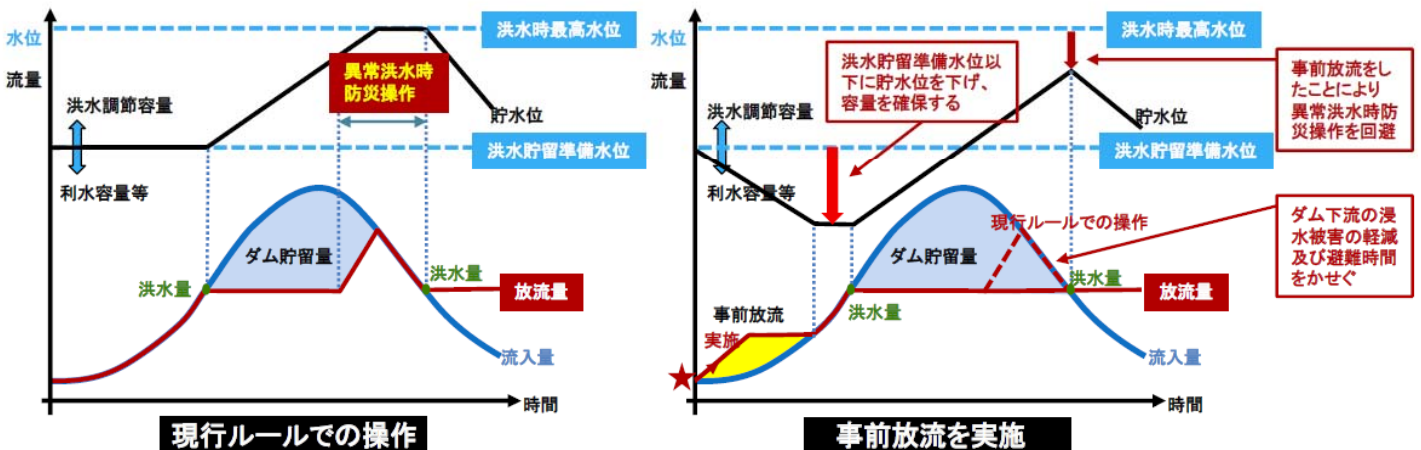
計画規模を上回る洪水が想定された場合に、ダムの容量の一部を洪水の発生前に放流し、洪水調節容量を一時的に増やす操作です。



## 2. 事前放流の効果

洪水調節容量を使い切ることを回避(異常洪水時防災操作移行の回避)、もしくは異常洪水時防災操作移行の遅延を図り、ダム下流の浸水被害の軽減及び避難時間をかせぐことができます。

<実施のイメージ>



## 3. 一庫ダムにおける事前放流の条件

異常洪水時防災操作が想定される規模の降雨として、ダム流域の実績雨量と予測雨量の合計が195mm以上であり、その時の多田院地点の河川水位が4.2m(水防団待機水位)未満の場合に実施します。

(事前放流の実施方法)

- ・ 事前に放流するダム貯水量は 最大約150万立方メートル
- ・ 事前放流によるダムからの放流は 最大毎秒100立方メートル
- ・ 多田院地点の河川水位が 4.2m(水防団待機水位) 未満となる放流

# ひとくら 一庫ダム



## 位置図



## 諸元

形式	重力式コンクリート
堤高	75m
堤頂長	285m
堤体積	約44万m <sup>3</sup>
流域面積	115.1km <sup>2</sup>
湛水面積	1.4km <sup>2</sup>
総貯水容量	3,330万m <sup>3</sup>
有効貯水量	3,080万m <sup>3</sup>
洪水調節容量 (洪水期)	1,750万m <sup>3</sup>
目的	洪水調節・流水の正常な機能の維持・水道用水の供給
管理開始	昭和58年度